

# JUN通信

高木 純の市政だより



吉野川市議 高木 純

## 三月議会高木純の一般質問

三月議会で高木純議員は次の項目で一般質問をし、ただしました。

- ①「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について  
ただの「書き物」にならないよう志の高い目標を設定するべき
- ②市の人口ビジョンと財政の関連について  
人口減少が確実な今、未来の吉野川市民に残す借金は減らせておくべき
- ③高すぎるゴミ焼却費用について  
他自治体と比較して高すぎるが市の将来のゴミ処理計画は？  
以上、三件質問しました。

### まち・ひと・しごと総合戦略

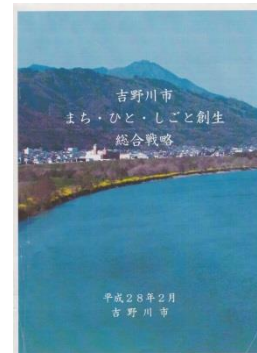
## 他の自治体と中身はほぼ同じだが

「まち・ひと・しごと創生法」によって全国の自治体が人口をできるだけ減らさないように「総合戦略」を立てていますが、同じ悩みを抱えている自治体が、同じ目標に向かってのものだけに、どこも同じような「作戦」になっています。

総合戦略には、ともかくにも人口を増やすために、大まかに言えば

「仕事づくりで雇用創出」「子育て支援」「移住の促進と定住」「魅力ある街作り」といった四つの目標を実現するために具体的な施策や内容、事業と数値目標まで書かれています。

この総合戦略を立てるために、昨年の三月から今年の二月まで部長級の職員から若手職員、そして民間の



委員が月に一回集まって一時間半から二時間の会議を行い、この総合戦略をたてています。これをのべ時間にとすると3259時間になりますし、その間、無給ではありません。それだけ時間をかけて作った「総合戦略」が、ただの書き物になっては困ります。

総合戦略では各事業について数値目標を設定していますが、市の説明では「普通の努力に加え、あと一歩の努力によって達成できるような、少し高めの目標を想定している」とのこと。民間ならこんな志の低い、楽な目標を立てることなど許されません。

今後、「戦略」見直して、吉野川市に人が本当に集まってくるような、高い志をもった目標を設定するべきです。

## 二〇四〇年の吉野川市の人口 三〇二七六六

## 未来の吉野川市民に残す借金は減らしておくべき

市の人口は国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後も減少傾向が続き、二〇四〇(平成五二)年には、30276人にまで減少する見込みとなっています。

市は2040年に人口を34000人に維持できるように目標としています。しかし、いざれにせよ今後市の人口は減少の一途をたどることになり、現在の人口が42813人です。2040年の吉野川市は現在の70%の規模になります。

さらに人口ビジョンの人口減少段階の表を見ると、2040年の生産年齢人口(15〜64歳)は2010年25656人から2040年

には14469人と56%に減少しますが、老年人口は2010年13316人から2040年には13241人とほとんど変わりません。

国の財政も心配ですが、自治体においても、社会保障などをこのまま維持すると、一人あたりの税負担が大きくなることは容易に想像できます。

これから先24年間のうちにこれだけ人口が減少するので、市が抱えている負債がこのままでいいはずはありません。28年度予算で示された市の起債残高は377億円で(一般会計、各特別会計も含む)、このうち返済時に地方交付税で充当されるのは二四四億円で、残りの一三三億円が実質上、市が抱えている負債になります。人口が確実に減少するとわかっているなら、未来の吉野川市民に残す借金は減らしておくべきです。